第１回土浦市立幼稚園，小学校及び中学校適正配置等検討委員会　会議録

１．会議名：第１回土浦市立幼稚園，小学校及び中学校適正配置等検討委員会

２．日　時：平成 21 年 10 月 6 日(火)　午後 1 時 30 分～3 時 40 分

３．場　所：教育委員会　2 階大会議室

４．出席者：
（委　員）水本徳明・口田文江・海野　孝(代理)・池田和男・沖田幸代・鈴木理香・説田賢哉・大塚　猛・笹本恒久・笠原美智子・坂本喜久江・和田士郎・岡元孝子・近藤　修・中井川功・川島一男・古徳洋一・完賀浩光
（事務局）冨永教育長・長峰教育次長・細谷参事・石井課長・平塚課長補佐・峯本係長・塚本係長・松永主幹・関口主幹

５．公開非公開の別：公開

６．傍聴人の数：2 人

７．協議内容：
(事務局)　開会のことば
(教育長)　開会のあいさつ

皆さん、こんにちは。教育長の冨永です。本日は、土浦市の小中学校適正配置等検討委員会に、荒天の中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、ご多用の中、筑波大学の水本先生はじめ、皆様方には委員の役を引き受けていただきまして、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

平成 20 年の 4 月、茨城県教育委員会より小・中学校の適正規模化についての指針というものが出されました。(見直さなければならないのは)小学校 12 学級未満、中学校 9 学級未満ということでございます。そうした背景には、皆様方ご存じの通り、少子高齢化という中にあって、小学校の小規模化、複式学級の増加が、全県的に・全国的な傾向として起こってきているといったことが生んでいるように思えます。そういう中で、子供たちにとって、より良い環境は何か…ということから、望ましい学級規模の基準を示すというのが、教育委員会の考え方でございます。

本市に関しますと、これに該当する学校は小学校が 7 校、中学校が 1 校。合わせて 8 校がこの適正規模化の指針に該当します。先ほど水本先生ともお話ししましたが、数年前は土浦市においては、小・中学校が統廃合の対象になるということは思いもよらないことだったんだろうと思います。しかし現実は、複式学級の小学校もありますし、児童数が年々減っている状況にあることは間違いないのです。このような中で、こういう指針が示されてから、審議会の中で、ＰＴＡの集まりの中で、地域の集まりの中ででも、自分の学校はどうなるんだろう…と心配をする意見やお話を聞く機会がたくさんござい

ました。それだけ皆さんの関心の高いことであることがすごく分かります。
個人的なことですが、私は茨城県ではなく、福島県の非常に過疎化が進んでいる地域で育ちましたが、自分の小学校も中学校もすでに統廃合で無くなっております。去年のお盆に帰りましたが、高等学校までもがもう無くなっておりました。東北は統廃合に関しては今に始まったことではなく、ずっと前からせざるを得ない状況の地域になっています。しかし関東地区は、東北地方と比べると、非常に人口が密集したところが多いので、こういうことが起こることはつい最近のことで、こういう指針が出たことについて、皆さんが心配をされるのは私自身もよく分かります。
また、学校というのは、その子供にとっての大切な教育の場だけではなく、その地域のコミュニティの中心として発展してきたのは、紛れもない事実であります。やはり学校を中心に、地域のまとまりや連帯など、学校は役割を果たしてきておりますので、その学校が無くなるということに対する心配は、誰の心にも明らかで、共通するものがあると思っております。
そうした中で、この県の指針を受けて、本市における学校の適正規模化をどういうふうに考え、進めていくべきかを、いろいろな考えがあることが十分に分かることでありますから、皆様方のご意見・ご指導をいただきながら、土浦市としての取り組み・基本的な考え方を追求していきたいと思っております。
いろいろご苦労をおかけすることが多々あるとは思いますが、よろしくお願い申し上げます。

（事務局）　委員の紹介および事務局の紹介
・ここで暫時議長として教育長が議長席に就く

（事務局）　検討委員会設置要綱について説明

（議　長）　委員長の選出について、事務局に一任

（委員一同）異議なし
―委員長に水本委員を選出―
・ここで水本委員が議長と替わり委員長席に就く

（委員長）　副委員長の選出について、委員長に一任

（委員一同）異議なし
―副委員長に完賀委員を選出―

（事務局）　基本方針策定までのスケジュール、公立小・中学校の適正規模についての茨城県の動向と指針、土浦市の現状　について資料を用いて説明

８．意見交換

（委員長）　ありがとうございました。ただ今の説明について、ご意見を伺いたいと思いますので、皆さんのご意見を出していただきたいと思います、よろしいでしょうか。
最初ですので、いろいろと分からないことがあると思います。制度的なことも混じえたり国の動きや県の動きも説明いただきましたけれども，特に今日は現状や課題などについて、できるだけ理解するということを大事にしたいと思いますので、ご不問等あるかと思いますので、出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（委　員）　今、事務局の方から始終ご説明がありましたけれども、私立幼稚園に関して、皆様にと

りあえずご理解していただきたいことがございます。
現在、土浦市内には私立幼稚園は16園ございます。幼稚園の場合は、「適正」ということが「定員」という形に置き換えられております。16園の定員の合計数字は、2735名というのが私立幼稚園の定員です。そして現在、今年度の5月1日時点2383名が私立幼稚園に通ってございます。定員の2735名に対して、9割弱というのが幼稚園の充足率という状況でございます。
ただ幼稚園の方は、保育園との競合ということと、少子化という影響の中で、16園のうち現在定員を満たしている幼稚園は、6つしかないというのが実情でございます。
やはり社会の子育て支援ということが、今幼児教育には課題として重ねておりますので、幼稚園も従来の4時間保育とは別に、早朝預かりであるとか、放課後の預かり保育であるとか、夏休み・冬休み・春休みの長期休業日での預かり保育、また土曜日が休みの週休2日が学校で導入されておりますけど、土曜日も、自由登園という形で預かり保育までしているということで、地域の子育て支援という形で始終機能を拡充しているといった努力が、充足率9割に近づいているのかと思います。
ですから、将来的には私立幼稚園もこの定員に関して気丈に各幼稚園の分園、理事会等と、将来に関しては若干少子化の不安を抱きながら、日々教育あるいは保育に携わっているというのが現状だということをご理解いただければありがたいと存じます。以上です。

（委　員）　１ページの要綱第１条、これが委員会の目的にもなると思うんですが、我々委員会のミッションというのは、適正配置ということがすなわち、統廃合ありきで考えていくのか、それとも一回ニュートラルにして、結果として統廃合にもっていくのか…というところを確認したい。
あと、適正配置等ということころで、それ以外のところ、小・中一貫教育みたいなところまで議論を広めていってもいいのか…というところを確認したい。
また今後、政権をとった民主党が、教育のことについて指針を出していくと、どんなふうに影響していくのかを教えていただきたい。

（委員長）ありがとうございました。２点ありましたけど、１点目の要綱第１条にもある委員会の目的について、事務局の方から何かございますか？

（教育長）適正配置ということももちろんあるんですけど、現在の学校を見ますと、児童生徒数は１クラス５～６人という現状の中で、子供の教育を考えたとき、これで良いのか？ということも併せて考えなければならない。しかし反面、先ほども述べましたが、『地域の学校』としての地域の方々の思いもある。そういう中で、市としては、この検討委員会で、市はどういう考えで取り組んでいったらいいか、皆さんの率直なご意見を、いろいろな形で受け止めながら、指針を決めていきたいと思っています。
もう一つは、政権が変わりました。確かに、政権が変わるというのは、いろいろな面で変わる。例えば予算編成一つを見ても、今、いろいろな補正予算が動いています。
実は、予算の話を申し上げますと、自民党の補正では、小・中学校にスクールニューディールという政策で、太陽光発電をいただける事業がありました。これは子供たちの環境教育の上でも非常に良いことだということで、教育委員会ではそれに該当する学校、いわゆる耐震補強をしなくても屋上に太陽光発電を乗せられる学校が７校ありまして、

７校の申請をしましたところに民主党は「補正予算を見直す」となりました。文科省の話によりますと「約 2500 億円くらいは補正予算を引き上げる」ということです。その中に、スクールニューディールの太陽光発電も入っているというのが、最近の動きの中で見え隠れしています。現在はどうなっているのか全く情報がありませんが、政権が変わると予算の使い方一つでも大きく変わるのです。

教育の分野では、いわゆる少人数学級のことや教員の定数増というような話もマニフェストの中にあるようですが、具体的にどういうふうになるのかは、まだ示されておりません。具体的な形になって、我々の目の前に提示されるまでには、もう少し時間がかかるのでしょうが、推移を見ていこうと考えています。

（委員長） 他にいかがでしょうか。

（委　員） うちの小学校は先ほどのグラフにあったように、ものすごく小さな学校で、今 44 名しかおりません。確かに、何をやるにも人数が少ないので、運動会などの集まり事は親たちがやるような現状であります。運動会や地区のことを考えますと、実際、一番出てくるのは子供や親よりも、敬老会の老人の方が多くなってしまう場合もあります。

今日初めてで、どうしたらいいのか分からないのですが、先ほど委員さんが言われたように、あくまでも子供を主体にしたらいいのか、それとも一回打合せをした後、アンケートをとって、ニュートラルにしてから進むのかを、地域住民の方にも知らせなければならない。私の地区では残してほしいという意見が強いので、今後どのような形で、行政と学校側でどういうふうな考えになるのか、それを地域の住民にどのように周知徹底していけばいいのかを知りたいので、早いうちに、何かありましたら教えていただきたいと思います。

（委員長） 今後の進め方やスケジュールにも関わることなので、事務局の方からその点についていかがでしょうか？

（事務局） こちらにつきましては、今まで県の指針や国の動向を聞いていただきましたけれども、これからアンケートをいただくとかそういったことを踏まえまして、地域の皆さんや委員さんのご意見を伺いながら、統廃合についてはどのように進めるかを検討していただきたいと思います。

（委員長） スケジュールの中にも、アンケートやパブリックコメントを実施したりとございます。委員会としても、そういった地域の方々のご理解を得たり、周知していくなど、検討してございますので、委員の皆さんにはそういった周知とかご理解をいただいたりと、いろいろご協力いただくことになるかもしれません。

今日のスタート地点から統廃合ありきということを考えることはありません。この会自体をどういう形でスタートさせて進めていくかを委ねられていると考えた方がいいのかと思います。

（委　員） 小規模の小学校から、かなり大きな中学校に上がったお子さんが、そのときどのような気持ちになるのかをアンケートの中に盛り込み、中学生にもアンケートをとっていただけたらありがたいと思います。通学路の問題もあるかと思いますので、よろしくお願いします。

（委員長） アンケートの中身についてのご意見でしたけれども、承っておいて、アンケートの内容を変更する際などに生かしていきたいと思います。

他にございますか？先ほどの説明に対する質疑も含めて、全体についての、この課題についての協議という形に入っていくと思いますので、そのことも含めて、今後の進め方や、委員会の課題である『学校の適正配置』に関する考え方やご意見を、ご自由に出していただきたい。

（委　員）　私的な意見ですが、学校運営に関しましては、私共も幼稚園運営を行っております。教育長さんからありました通り、やはり行政予算が伴うということが教育である。いくらでも（お金を）かけるという米百表の話もありますけど、各地域の中で、こういう委員会を設けるということは、地域の行政予算という問題も重視しての委員会ではないかなと思います。

昨日も常北町の方で、10 の小学校を５つにするという決定を目にしましたけれども、県の教育指針あるいは国の教育指針、それから、市がそういう面で今後どういうふうに、人口推計等の予測も出していただきましたけれども、現時点での土浦の教育長さん、市長さん、議員さん方が、将来的に市の教育財政や教育のあり方をどういうふうに考えいくのか、ということも非常に重要な要素になると私も思いますので、次回は、ぜひその辺のご意見も事務局からお聞かせいただきたい。以上でございます。

（教育長）　市の財政は、皆さんも広報でご覧になっていると思います。9 月の広報にも地方財政の判断指標というのが 4 項目出ていて、実質赤字・公債比率など、いろいろな指標に照らして市の財政はどうなのか、市報を見ていただくとお分かりになると思います。

地方財政が最近危機にある市町村もたくさんある中で、土浦市は良い方にあると私は思います。

小・中学校の経費および学校の設置者は市町村にありますので、学校を建てたり建て替えたりする費用は、国の補助もありますが、主体は市町村にございます。しかしながら、教職員の人件費は、義務教育国庫負担法によって国と県がそれぞれ負担をしています。ですから教職員が多いからといって、市の持ち出しがどうこうということではありません。学校の建て替えや修繕費、事務的な経費などは市町村が負担しています。ですからそれを優先して統廃合を進める、という考え方はございません。

（委員長）　教育財政の仕組みについては複雑なこともございますので、追々、いろいろなところで質問していただいて、ご理解いただくことになるかと思います。今お話しいただいたように、教員の給料は学校経費の中で圧倒的に占めています。そこにつきましては県が負担して、その 3 分の 1 を国が補助していますので、先生の数については市の財政には直接関わってこないという現状です。

他にいかがでしょうか？

最初ですから、あいまいな点や不安な点を出していただければと思います。

（委　員）　学校間で大きい学校と小さい学校があるのですが、宍塚小はモデル校として放課後教室や三世代交流事業などいろいろな事業でたくさん予算を付けていただいています。小さな学校だから扱いやすいのか…行政側として他の学校みんなに割り振りしていない気がします。

学校のモデル事業は結構多いです。一つ一つは違いますが、そういった事業はほとんど内閣府が持ってくるのでしょうか、他の学校も同じかと思っていました。私がＰＴＡをやり出してから新しい事業が増えた気がします。留学生と一緒に草刈りをやるなど、そ

れが良いのか悪いのかは分かりませんが、そういうこと(新事業が多いという問題)もあるので、その辺りも考慮してもらいたい。

確かに今のＰＴＡ活動に関しては、宍塚小だと児童も親も少なく、全部で 30 所帯くらいしかない。サラリーマンの方が多いので、普通の学校よりも負担が大きい。ＰＴＡが多ければ分担できるけど、少ない学校ではサラリーマンでは(分担するのは)どうかな…という思いもあります。

地域住民は学校を残したいと思っているが、サラリーマンの人で、もしＰＴＡの役割に当たってしまった場合、大きい学校に行って負担を減らした方がいいと思う部分があるだろうから、どっちがいいかは分からない。学校の運動会をやるとき、地域の住民の方が圧倒的に多いとなると、地域のためにあるのがいいのかと思う。しかし子供たちの競争心のためを考えると、1 クラス 2 人、いても 12 人くらいしかいないというのは問題である。

委員会で何を発言して、どれが良い案なのか…自分で選べないところがあるのが今の現況ですが、今回出させてもらったことは持ち帰り、学校の方からみんなに配布してもらおうと考えています。委員会には出させてもらったけど、どうして良いか分からないのが現状です。良い案があれば、良い方向付けをしてもらい、時間をかけて考えていくのが一番よろしいかと思っています。

（教育長） 今のご質問にいくつかお答えします。宍塚小は「放課後子ども教室」という事業に取り組んでもらっています。これは、子供が学校から帰った後、同級生が少ないから遊び相手もいない…という状況の中で、他の小学校は「放課後児童クラブ」ということで子育て支援事業の一環として児童クラブを作って、そこに指導員を入れて、3 年生までですけれども面倒をみてもらっています。ですが、宍塚小の場合はそれがありませんでした。そういった中で、放課後子ども教室という事業がありましたから、宍塚小に向いているのでは？ということで(導入させていただきました)。

これは１～6 年生を対象にした事業です。ほとんどが地域の方のボランティアで子供の面倒をみてもらっていますが、地域では大変好評な事業であると思っています。そういうのは意図的に、宍塚小にお願いするのが一番いいのではないか、ということで導入させていただいた事業です。

それからもう一つ、宍塚小は、特徴的な分野では環境教育ということで、地域の自然いわゆる宍塚大池を生かした教育をずっと前から取り組んでいて、環境大臣賞をいただいたくらいの学校です。そういったユニークな取り組みをしていただいていている部分もあります。

しかしながら、今おっしゃられたように、子供たちが 45 人ではドッヂボールをやるにも友達がいない…体育をやるにも競技ができない…そういう点では子供たちも寂しい思いをしている部分もあるでしょう。けれども、地域の方やＰＴＡの方が子供たちの相手をしながら、できるだけ学校教育が上手くいくようお手伝いしてくれていることもまた事実であります。

何しろ、130 年もの伝統ある学校ですから、地域が学校に寄せる熱い思いがあることも私共は重々理解しているつもりです。小さいからといって全て宍塚小に(事業を)預けるという考え方ではなくて、いろいろ考えながら、そういう事業を入れているということ

でございます。

（委　員）　土浦ではないのですが、ある小学校で廃校の決定をみなしていたところ、地域で大きな開発がされることになり、現在では逆に増築している状況です。学校の統廃合は非常に難しい問題です。

私事ですが、私は土浦幼稚園を出ています。土浦幼稚園は、園長先生も今頑張っていますが、どうしても私立の方に行かれてしまい、どんどん子供たちが少なくなっています。それから土浦幼稚園は明治 18 年にできた歴史ある幼稚園で、私は個人的には何としてでも土浦幼稚園の名前を消さないでほしいです。そこから出た者にとっては名前が無くなることは本当に(悲しいこと)、多分宍塚小を出ている人もそうだと思いますが。その辺が(統廃合の)ネックになると思います。だから、土浦幼稚園も何とかして名前を残していただきたい…そんな願いを出た者は持っています。

（委　員）　ここまで(第 1 回検討委員会に)出てくるのに期間が短いものですし、私はあまり行政の方とか学校関係といった公の場に出たことがないので、こんな意見をここで言っていいものかどうか…ちぐはぐで内容が違うんじゃないのか？と思われてしまうかもしれませんが、ちょっと思ったことを言わせていただきたいと思います。

何からどう言ったらいいか分からないのですが、小・中学校の統合問題はとても大事なことかと思います。私は、不登校の子供たちやいろいろ問題のある子供たちをみていた期間が長いんですけれども、小さい学校から大きな学校に入ってきた子供たちの不登校になる率は、意外と高いです。それが土浦の場合では、多分、同じ市内の環境的な違いはあまりないような気がします。

土浦の実体は特には分からないですけれども、私が今行っている別なところでは、大きな学校に来てからの戸惑いと、小さな学校では担任の先生が終始目を配っている部分が、中学校に行くとそういう時間がなくなり、子供の話を聞きましょうということになっても部活の問題やいろいろな問題があって、なかなかそこまでいかないです。そうしますと、やはり大きな学校より小さな学校の方が自分の思いが通るという部分で大きいものがあるので、そういったギャップというのは子供たちにとってはとても大変なことのように思えます。先生との接し方も同じだと思います。

あと幼稚園のこと。私は子育て支援の方にもちょっと関わっていますが、土浦はとても転勤族の方が多いです。だから、ある程度家庭の収入面を考えると、今、私立に行かれるお子さんは多いです。でも、本心は公立の保育料が安いところへ行かせたいと思っています。でもやはり夕方の 3 時くらいに帰ってきてしまうと、その後面倒を見る人がいない(のが現状)。子供が大きくなるまで子供を自分で見るか、それともそれ以上に働くということを加味して、私立幼稚園の延長保育なり、保育園を探して入れるか…ということが、今、お母さん方が悩んでいることです。ですから本当は、小学校に上がるまでは、保育園的で経費が安い公立幼稚園を各地区に多く作っていただきたい。でも場所によっては統廃合をしないといけないようなところもあり、難しいのかなとも感じます。

先ほども出ましたが、市内に公立幼稚園が固まっているのは本当に問題です。端から端まで連れて行かないと公立幼稚園へは通えない。また、保育園は待つ時間がとても長くて、自分が仕事を見つけてから保育園に頼もうとなると近くの利用したい園に入れない。それで、保育園を探してから仕事となると 1 か月の間に仕事が決まらないという現状が

あるので、今のお母さん方はそこのところをすごく問題にしています。
私は今、0 歳児から不登校の 30 歳近い子供たちのことや、小・中学校にも別な地域で関わっていますので、いろいろな方向から見ていくと、いろいろな問題が多いような気がします。皆さんにもそういうところから良く考えていただきたいです。
実は私は、土浦に来て土浦の幼稚園に入ったんですけれども、その幼稚園はすでに無くなってしまっています。とても悲しいとは思いますけれども、そういう現状を踏まえながら、学校を残すということも、心の思いの複雑な部分もあるということを加味しながら時代の流れとともに、皆さんと考えていきたいです。
また、もう 1 点、私が今関わっている小学校は、地区で出しているバスと普通の公共バスを使いながら学校に通わせている。徒歩で通っている子供たちがほとんど少ない学校です。その良い面は、一定の時間に来て一定の時間に帰るということ。防犯上、心配事が多い中で、学校自体が一斉にその時間に合わせてバスに乗せて帰す、ということは父兄の方にとってもちょっと安心という部分がある気がします。ただ、人によっては朝のバスの時間がとても早いので、それはちょっと(困る)…というところもあるでしょうが。そういう(バス通学の)中で、子供たちの上下関係や思いやりが出てくると思うので、それもまた良い面なのかなと思います。土浦でも小学校とかがもし統合されると、通学バスを出さなくてはいけないような内容にもなると思うんですけれども、皆さんで考えていけたらと思います。

(委　員)　申し訳ございませんが、委員さんに一つだけ断っておきます。ここは学校審議会ですから保育園の状況については事務局さんから後で説明を受けないと分からないんですけれども、私立幼稚園は非常に経費がかかるということに関して、現時点では就園奨励費という所得に応じた年間でのリターン分が、最高では昨年度で 18 万円くらい出ています。それから、土浦市から大切な予算を園児一人当たり 3000 円、月々いただいております。ですから、所得の階層によっては、保育園よりも、実質、私立幼稚園の方が年間を通しての保育料が安いということもございます。ですから、その辺、「高い、高い」と思われるのは、月々はそうであっても、年間を通してそういう就園奨励費や土浦市の助成金というものを、保護者の経費軽減にありがたくお使いしておるということもご理解いただきたいと思います。

(委　員)　個別のことを言い出すと長くなってしまうので、総体的なことを言わせていただきます。まず、この「適正」という言葉に我々の意識が非常に強くなってしまうと、客観的で優等生的な意見を出そうとするだろうが、そう思ってはいけないのではないかと思います。先ほどのお話のように、実は学校予算の中で一番大きいのは当然、人件費なんです。言ってみれば市からの負担は小さな負担で、大きな予算を持ってこられる部分があるわけですから、そういうものをみすみす手放すようなことをしなくてもいいんじゃないかと思います。
この地域の子供たちを守るために、できるだけ国や県から予算を分捕るぐらいの気持ちで、我々はそれを後押しするんだと(いう気持ちでいたい)…これはもう客観的な部分であるので、事務方にお願いするしかない。事務方の交渉力というもので、できるだけ適正での、ストレッチゴールの適正で、当たり前の及第点ゴールではなくて、100 点目指して、ちょっと動かすことによって大きな予算を外れてしまっては県や国の言うがまま

になってしまう。あくまでも我々の地域のことですから、我々が後押しするといった意味では、我々の意見は決して客観的でなくていいと私は基本的に思っています。

当然、皆さんいろいろなご意見があろうかと思いますが、そういう視点も一つはあると思います。どうしても「適正」という言葉にごまかされるというか、客観的で優等生的な意見をここでまとめようということになってしまっては、逆に私はいけないのではないかという気がします。

（委　員）　実は私の頃も、宍塚小は小さな学校でした。その当時、土浦一中に宍塚小から 29 名くらいが入ったと思うのですが、いきなり土浦の街中の 12 クラスで 54～55 人もいる中に入りましたが、大きい中学校に行ったからといってさほど物怖じはしなかった。

ただ、今の時点で宍塚小の子供が可哀そうだと思うのは、人数が少ないので競争心があまり湧かず、ケンカもおそらくないんじゃないかということ。何故かと言いますと、ケンカなどがあると、少人数なので次の日学校へ行きづらくなるということが生じる。だから闘争心がなくなる…欠点とすればそういうことです。ただ、教育を受けるときは、子供が少ない方が勉強はできるようになる。あと一番は、やはり地域の問題だと思います。

（教育長）　今の話ですが、多分一中では、宍塚小から来る子供はバラバラにしないで、１年生のときは１クラスにしているんだろうと思います。２年・３年生になると分けるのかもしれませんけど、先ほど出た不登校の部分も絡みますが、そういう配慮は行っていると思います。

（委　員）　登校拒否などの話は聞いたことがありません。

実は、うちの集落や隣りの集落が、残したいという意思が一番多いんです。西部地区という昔から地区的に分けられたところで、開発を恐れていては人口が増えない…ということがあったので、そういうところがいくらかあるのかと思います。

（委　員）　公立幼稚園は２年保育で、６園あります。年々園児が減少しており、保護者や私たち教師は３年保育を希望しておりますが、市としてはなかなか実現できないようです。今回、適正配置ということで、幼稚園でも対象になっております。先ほど委員さんもおっしゃったように、土浦幼稚園は創立で 125 年。全国でも９番目。現存しているものでは６番目に古い幼稚園なので、単に園児が少ないからということで統合したり廃止されては、ちょっと残念です。

特に今度、土浦小改築ということもありますが、そういうことを視野に入れて言うならば、例えば土浦小の中の一部屋を幼稚園の園舎にする…というのも一つの選択かなと考えています。

また、新治幼稚園以外はバスがありません。そのため、徒歩や自転車で通園している方も多いために地域とのつながりが強くて、統合などで無くなると大変寂しい気がいたします。

今日は皆さんの意見を参考にしたいと思います。よろしくお願いします。

（委員長）　他にございませんか？せっかくの機会ですから、特に最初ですので、まだ発言のない委員さんにも一言ずつ、今までの話を聞いたうえでの感想でも結構ですので、いただきたいと思います。

（委　員）　適正配置ということで、大事なことは、一つは保護者や地域・住民の不安解消あるいは

地理的・歴史的条件ということでございますけど、先ほど委員さんの方からありました土浦幼稚園を(残してほしい)ということでございますけれども…―実際、私は東(小)にいたことがあるんです。そのときに、東小卒業生は４人しか四中へ行かず、ほとんどは三中へ行っていました。でもその４人の子供たちは、全部１クラスで四中へ行っています。子供たちの様子を聞きますと、中学校は大変楽しいよ！ということで出て(卒業して)いました。ですから不登校などはございません。

それからもう一つ、小規模校ということで複式学級がありますが、私が最初に勤めていた現かすみがうら市の上佐谷小は全児童71名で、本当に少なかったです。1年生が奇しくも17名も入ったんです。全校で71、1年が17。ちょうどひっくり返すと数字が同じなもので特に印象が強く残っています。ただし4年生5年生は5～6人でした。ここで、やはり地域の方々の学校への思いというのは、まず新築してしまおう、ということで、上佐谷小は新築してあります。さらには児童数が少ないということで、神立地区から上佐谷地区に移住してきてもらいまして、児童数の不足分を補った事実があります。

ですから、統廃合の問題とは最終的には県の指針があるとは思いますが、やはり、保護者・地域あるいは学校の思いが並大抵ではないと思います。先ほど委員さんの方からありましたけれども、百何十年たってもつぶさないでくれ、ということでございますから、なかなか難しい問題ではないかと思います。以上でございます。

（委　員）　統廃合やいろいろな問題で、まず我々がここで、方針や方向を決めて話し合うのは大いに結構なことだと思いますが、県の方針の中にも書いてあるように、地域の要望などが一番大事なんだと思います。特に反対する人には反対する非常に深い思い入れがあったり、そういう部分を乗り越えて物は進められるのです。

しかし、我々はここに地域の代表で来ているのかどうか良く分からないが、県が出した指針に従わなければ、土浦も今からはやっていけないんだから、そういう立場でその方向・方針の意見を述べなければいけないと思う。アンケートやいろいろなものをとってみれば、地域の卒業生たちがそれぞれどう思っているのか(回答の中に)出てくるだろうし、そうすれば今度は説得しにそれぞれの土地で話し合いをするとか、そういうふうになっていかなくてはならない。学校問題は本当に大変である。

そういえば昔、二中から都和中が別れたときに、常名が二中より遠くなってしまった…距離的には同じだけど、常名にバスが通って木田余まで行くと二中の下に降りる所があったが、今度は都和中が出来たとき、歩きで行くしかない状況になった。

これはなかなか大きな問題になったなと覚悟してここに出ています。

（委　員）　今日は皆さんや事務局の話を聞こうと思って来たのですが、先ほど出ておりましたけれども、今日のこのタイトルの中に、適正配置と書いてありますけれども、私は適正配置検討委員会ということに何ら違和感はありません。こういうものにはこういう言葉を使わなければならない。

統廃合についても、結論ありきの話をしてしまうと、私は賛成です。全体的なことを考えていきますと、財政面からいろいろなことを考えたとき、統廃合はある程度しょうがないのかなと。ただ、地域の皆さん方の思いというものは、ものすごくあると思います。

私も土小・一中の出ですから「土小が無くなる」といったときに、どういう思いになるか…現在は分かりません。ただ、宍塚小が土浦小に統廃合されるんじゃないかな？など

と思うとき、宍塚小を出た地域のおじいちゃん・おばあちゃん皆がいると思いますが、そういう方たちと最終的に談判をして、反対されるかもしれませんがいろいろ話し合いを最後まで(していかなくては)。八ツ場ダムではありませんが、ああいう状況になっていくかもしれませんが、それは泣き泣き行政側に考えを向いていかなければならないのかな、と私は思います。以上です。

(委　員)　一つは、土浦幼稚園と土浦小のとても近くにたまたま住んでおりまして、土浦幼稚園のときは、自分だけ母親が迎えに来ないぐらい近くて、10 秒くらいで、土浦小は 20 秒くらいで着いてしまうところなので、個人的な意見ですが、やっぱり土浦幼稚園が無くなることになるととても寂しい。

それから、学校の校庭ですとか土浦幼稚園の園庭を利用させていただいて地域活動をよくしておりますので、そういったことを考えると、やっぱり地域にとっての学校ということが頭に最初に浮かんでしまいます。多分、私の個人的な感想から言うと「生活圏」という言葉が出てきましたが、今は車社会なので「コミュニティ圏」と置き換えた方が無難かと思いますが、もしコミュニティ圏というものを考えるとすれば、中学校区は顔が見える地域としてはちょっと広すぎるような気がするのです。小学校区くらいが地域のつながりが一番良いような気がします。

もう一つ個人的な意見を言わせていただくと、宍塚小さんのことが結構出てきましたが、聞いているととてもうらやましい、というか、ケンカがなくて競争心がないのではないかと言われてましたけど、1 学級で切磋琢磨できなくて 2 学級にすれば切磋琢磨できるのか？とちょっと疑問に思っています。

皆さんのご意見を勉強させていただいて、何とか良い提案ができるようにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(委　員)　私には小学校と中学校に子供がいまして、やはり今載っている適正配置に選ばれている学校です。新治中も、小学校も 3 つとも。昔からの長い歴史の中で、うちの親も私もこの地元で育った人間なので、地域の方とかいろいろな意見を聞きまして、いろいろな思いをいろいろな面で考えていかないと、大変かなと思いました。

子供たちの学習とか人間関係とかも、より良い教育をしていく中で、本当に一番良い(方法を)、どういう方向で(考えて)いったらいいのか。年々(子供が)少なくなってきているので、本当に将来のことを考えて、もし統合したとしたら、(もう元には)戻せないと思うのです。もし人口が将来増えるようなことがあっても、もう無くしたものは戻らないと思うので、真剣に考えていきたいと思います。

(委　員)　土浦で 2 番目に小さい小学校ということで、こちらの方(検討委員会)にきた(呼ばれた)と思うんですけど、いろいろなお話を聞かせていただきました。

うちの学校は 77 名なんですけど、教育的には先生方にも十分熱心にやっていただいております。ただ、子供が少なくて可哀想かなというのはあります。

しかし少ないなりにみんなの学校、多い学校では考えられないような(団結力があります)。この前の体育祭でも、1 年から 6 年までの全員が赤白に分かれてリレーをするなど。また 6 年生の子供が 1 年生の名前を知っているといったように、その面倒見(の良さ)という部分はかなりあることは間違いないと思います。

あと今年から始めたのですが、学校でレンコンの栽培をしたり、米の栽培をしたりして

います。教員が少なくても、(児童が)77名ですけれども、子供たちにはいいのかと思います。ただ、子供たちには可哀想かなという部分はあります。

上の子供の方は中学生なので、先ほど心配されていたように不登校があるのではないか？という話も多少耳にはしますけど、教育長が言ったように1年生の場合は、ある程度まとめて入れてくれるといった配慮を五中の方では受けてくれています。

特別、私も小学校は上西小、うちの親父も上西小、そのじいちゃんも上西小というような流れできておりますので、私が代表で、委員として選ばれて、(その結果)廃校だよ、と言われたら…そうなのかと。かなりのプレッシャーを感じております。

（委　員）　今日は全く白紙の状態で来たんですが、皆様方のいろいろなお話を聞いて、もっと分からなくなってしまって、ちょっと今は自分の意見というのが出てこないんですが。

地域の皆様の思いというのは、すごく大事だというのはよく分かりました。

私には右籾小と六中に子供がいます。右籾小は去年30周年だったんですが、そのときに、右籾小を作るときにご尽力いただいた地区長さん方がいまして、その方々がまだ健在なものですから、もし右籾小が無くなるということにでもなったら、やっぱり大反対をなさるのかなという気がします。でも地域の皆様の思いも大事なんですが、子供たちが一番なのかと思うので、子供たちがどのような環境で生活・勉強して人間関係を築いていくかということを一番に考えてあげたいので、良い方向に行くように真剣に考えていきたいと思います。

それとちょっとお恥ずかしい質問なんですが、この中に出ていた「複式学級」というのが分からないので、教えていただきたいです。

（事務局）　複式学級ということで、今、現在宍塚小の2年生・3年生、4年生・5年生と2つの学年が1つの学級になっています。複式学級は国の基準が決まっておりまして、1年生の場合はめったにないんですけれども、「1年生ともう1学年の2学年で8名以内の場合は複式学級」となります。1年生からあるんです。ただ、宍塚小の場合は、1年生が今7名で、2年生はもっと人数がいますから、「2年生と合わせて8名以内」にならないので1年生は外れているんです。そして2年生と3年生がちょうど16名。2年生以上については「2学年で16名以内」ということですから、ちょうど2年・3年で1つの複式学級。それから4年生が2名と5年生が12名ということで、16名以内の14名なので、4年生・5年生も複式。

というわけで、2年生以上は2学年で16名以内という基準ですので、本年度、宍塚小が1つ複式の方が増えたということになっています。以上です。

（委　員）　今日、ここに来ていいのかな…という思いで来たんですが、皆さんのいろいろな意見を聞かせていただいて、すごく難しい問題だなと感じています。私にも幼稚園年長の子供がいます。今、第二幼稚園に通っているんですが、先ほど委員さんからもお話がありましたように、やはり人数が少なくなってきていて、その子たちが小学校に上がったときもきっと少ないでしょうし、これからも急激に増えることはないと思います。少子化と言われていますし。でも土浦は、とても過ごしやすく、子育てがしやすい環境なのかなと感じます。私は中部の出で土浦の人間ではないのですが、こちらのお友達では(子供が)2人・3人・4人、中には7人という家庭もあるので、子育てしやすいのではないのかなと思いました。それは、今お話をお聞きした限り、地域の皆様や先生方がいろいろ

携わっていただいて、すごく良い環境であると思ったからです。
統廃合の問題については、本当に真剣に考えていかなければならないと思っています。県の方針や指針を出されても、多分私にはよく分からないですが、やっぱり子供たちが一番だと思うので、子供たちが過ごしやすいようにしていくにはどうしたら良いかを、私も一生懸命考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

（委　員）　いろいろ考えたんですけれども、「適正」って何だろうか？という思いもあります。学校で子供を預かる立場としては、子供たちにより良い教育をしなければならない、ということが大前提で、全ての学校、市内 20 校でその思いで取り組んでいるであろうと。これは私も自信を持って言えることであります。
ただ、学校の大小の規模ではなく、それぞれの学校規模によっては持っている条件が違いますので、悩みや子供たちに対してこういうことを配慮していかなければならないというのは、児童数の大小によってそれぞれ違うと思います。
乙戸小に来る前は、稲敷市の学校に勤めておりました。そちらの方は小規模で、児童数が 100 人未満でした。最後の日には、入学した児童が 10 名。その前も 10 名で、教育長さんの方から、あと 6 年後には児童数が、今 0 歳児が 2 名しかいないという話でした。そして、本市の統廃合とか適正規模の検討委員会よりもずっと前に、検討がされて答申が出されたという話を聞いております。
そのとき一番考えていたのは､確かに 10 名とか 16～17 名であると､目が行き届きます。大変良く届きます。ですから、学習とかそういうことに関しては、先生方が精いっぱい努力してくれて、力を付けてくれています。ただ、先生の努力によってはどうしてもできない部分はたくさんあります。子供たちが 10 名だと 6 年間変わらないんです。教師たちは授業を教えている以上にその子供たちの人間関係とか、その後ろの保護者の人間関係に大変気を使っています。言葉など含めて、ものすごくそちらの方に神経を使いながらその学校は取り組んできました。
どうしても人数が少ないので、そのままというわけにはいかないので、校外学習とかは近隣の同様の学校とジョイントさせて活動することを積極的に取り組みました。子供たちに、よその学校との、多くの仲間を増やしてあげようという意図がありました。そういう形でも取り組みました。最後の頃は、6 校がまとまって宿泊学習を一緒にやるところまで行きました。6 校集まっても 120 人くらいしかいない状態でした。1 つの学校分くらいでした。
将来、土浦市を担う子供たちにより良い教育を受けさせるために、大人としてどういうふうにしていくことが、何をすることが良いのだろうか、ということを考えていかないといけない委員会であると受け止めさせていただきました。
やはりそこの小さな学校も廃校になってしまうかもしれませんが、136 年の歴史があるんです。相当古い歴史です。ＰＴＡ会長さんはいつもいろいろな会合で必ず聞いてくるんです、「私の高校も無くなった、中学校も統廃合で無くなっている、小学校も無くなるのか。」いつもそういうことを何かのときに言うんですけど、答えようがなくて…子供たちのことを考えてそれを最優先に考えていくしかないでしょうと話をさせていただいていました。ここでも、そういうふうに私は受け止めています。子供たちのことを最優先に考えていただければいいんじゃないかと思っています。

（委　員）　今日の発言が最後となりますけれども、私自身は、当然、子供たちや保護者にとって魅力ある学校でなければならないと思います。それぞれの立場からご意見があるとは思いますが、私は危機感を感じているんです。私立の小・中学校が周りにたくさん出来ております。将来的にはもっと増えてくるんじゃないかということも考えておりますし、そのときに、「この学校を選びたい」と思えるような学校じゃないといけないと感じております。何人からかお話があったように、子供たちにとって、魅力ある学校であるか？と(いうことが重要)。規模とかそういうのではないと私は思います。中学校を扱う立場からいえば、受験の問題や部活動問題などで、いろいろと、こういう規模がいいんじゃないか、などあるかと思いますが、そういう視点で話を進めて行っていただければありがたいと思っています。以上でございます。

（委員長）　一通りご意見をいただきました。率直にいろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。「適正」という言葉についていろいろとご意見・ご発言ございましたけれども、学門的に答えがあるんじゃないかと思われるかもしれませんが、残念ながらございません。というのは、学校の規模というのは、一つにはどのような教育をするかによって違うわけです。こういう教育をするには、こういう規模がいいというのはある得るかもしれないですが。それと規模以外のいろいろな条件が関わってまいりますので、一律に規模がこうだと教育がこうだとは言えないのです。教育学的にこのような規模の学校が最もいいのだというような定説があるわけではありません。国際的にみてもそのようです。

では何のために私がいるのか…ということになりますが。どのような教育をするのか、子供たちにとってより良い教育とはどのようなものなのか、を考えていかないと答えは出てこないんです。他のさまざまな条件も考え合わせながら、土浦市の子供たちにとって、それぞれの地域の子供たちにとって、一番良い環境のあり方というものを考えていかなければならない。今、皆さんのお話を伺いながら、なかなか大変なことになったなと、委員長としては腹をくくらなければいけないなと思いました。

１回目ですので、今回はいろいろなご意見を出していただきました。出していただいたご意見を参考にしながら今後進めていきたいと思います。また、今後進めて行く中でもその都度ご意見をいただきながらやっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（事務局）　次回の日程の説明および閉会のことば

―互礼―

―１５時４０分終了―